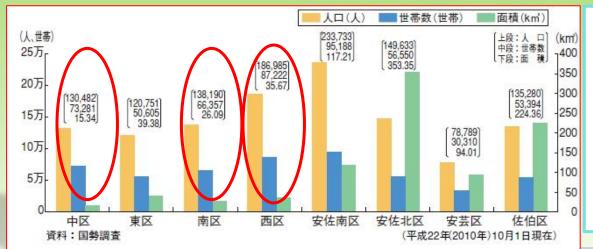


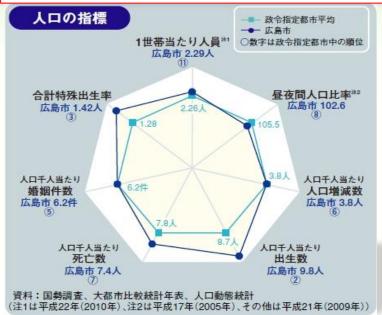
広島市の概容→平成22年(2010年)の国勢調査によると、広島市の人口は117万3,843人で、 政令指定都市の中で10番目です。平成17年(2005年)の前回調査に比べて1.7%増加しました。 世帯数は51万2,907世帯で前回調査に比べ5.2%増加しました。一方で1世帯当たり人員は 2.29人で、政令指定都市の平均(2.26人)を上回り11番目となっており、昭和25年(1950年)以 降は、一貫して減少しています。※24年高齢化率20.8% 高齢者240,335人

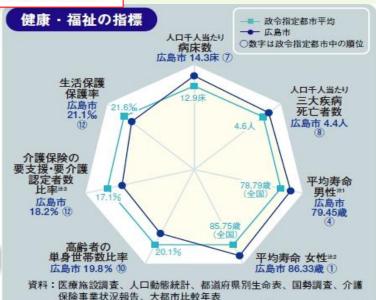


中区、南区、西区の3地域が 当院の在宅医療範囲 3区人口計 45万4千人

高齢化率 高齢者人口 中区21.6% 27,374人 南区20.9% 28,994人 西区18.8% 35,171人

広島市住民基本台帳から





(注1、2は平成17年(2005年)、注3は平成21年、その他は平成22年(2010年))

在宅・施設医療ネットワーク広島 「施設医療支援・連携型」として設定した課題

タスク1:多職種連携ネットワークの構築

タスク2: 医師間代理ネットワーク等の整備

タスク3:施設職員の「看取り研修」を基本にした人材育成支援

タスク4:多職種専門職の業務負担軽減の支援、勉強会の実施

タスク5:一般市民への在宅医療の理解、啓発の推進

タスク6:関係機関、メディアへの事業広報のアプローチ

タスク1:多職種連携ネットワークの構築

「多職種連携勉強会」による連携ネッワーク構築、推進による課題抽出、分析、共有

多職種連携勉強会として 24年12月、25年1月、2月、3月 計4回開催した。

(在宅医療連携拠点事業年度内 4回延べ動員約200名)

多職種勉強会には耳鼻科、歯科、眼科医計3名がレギュラーメンバーとして参加している 各専門職から出た意見、アンケートは現在集計中で、チーム課題解決の方向性を含め 今後の活動に取り入れ活かして行く。多くの専門職の皆様からの希望もあり事業終了後 も継続して連携の充実を図るため4月以降も「多職種連携勉強会」として継続開催する。



タスク2: 医師間代理ネットワーク等の整備

在宅医療従事者の負担軽減の支援

- ・在宅医療については、24年4月から4診療所と連携し機能強化型在宅療養支援診療所として 自らも在宅医療機関として活動している。 中区、南区、西区の3地域が当院の在宅医療範囲 3区人口計 45万4千人
- ・施設医療については、在宅医4名と施設医師不在時の医師間代理ネットワークを整備。 連携による医師間の負担軽減を実現している。

タスク3:施設職員の「看取り研修」を基本にした人材育成支援

人材育成と支援と活動

施設職員への看取り研修

施設看取りを進めるには職員の教育は不可欠

広島県緩和ケア推進支援センター作成 「看取りガイド」による研修会を4回実施 合わせて看取りマニュアル作成の指導も行なった。

10施設,延べ受講者41人今後も施設から要請により研修を実施する。
「現場では、「大き」」の11 が関わった。
「大きない」の11 が関わった。 冊子の執筆、編集には当チームスタッフの1人が関わった

その他の研修会等への講師参加

看取り介護について 2012年7月19日 (木)

主催:広島市老人福祉施設連盟 中堅職員研修会 会場:広島県県福祉センター

在宅医療推進医等リーダー研修会 2013年2月17日(日) 主催:広島県 会場:福山市医師会館

地域包括ケア連携体制づくりシンポジウム 2013年2月21日 (木)

> 主催:広島県社会福祉協議会 会場:広島県健康福祉センター

介護保険施設における がん患者さんの看取りの

~その人らしさを支えるケア~

広島県最初ケア支援センター 最初ケア支援室

在宅医療推進医等リーダー研修会 2013年2月24日(日) 主催: 広島県 会場:広島県庁

西区ケアマネジメント研修会 会場:広島市西区地域福祉センター 2013年2月28日 (木)

タスク4: 多職種専門職の業務負担軽減の支援、勉強会の開催

多職種在宅従事者の負担軽減の支援

- ICTを活用した多職種間での情報共有の試行。 EIR(エイル)を導入し現在、在宅患者では9名を 施設では25年4月新設の2ユニットグループホール 開設時から導入、連携の予定。
- ■一番の課題ともいえる退院前カンファレンスの効率的な実施に向けて、多職種勉強会等からの要望などを取り入れた。 入れた「在宅移行力ンファレンスシート」を作成。 現在、連携ネットフークで試用中。

タスク5:一般市民への在宅医療の理解、啓発の推進

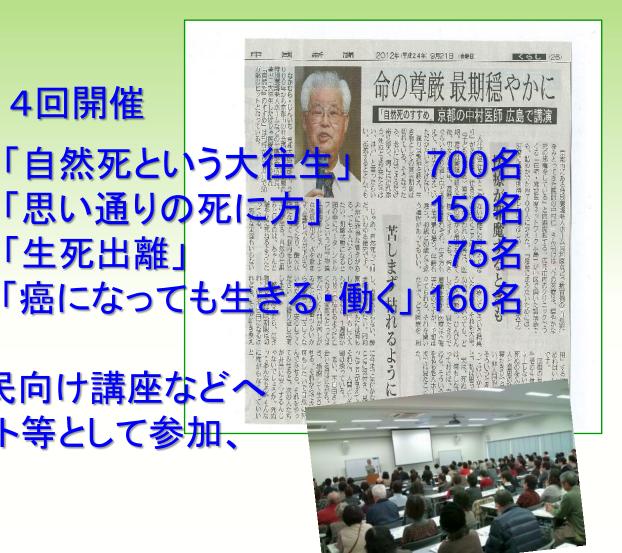
在宅医療に関する広島市民への普及啓発

•市民公開講演会 4回開催

> 中村仁一医師 久坂部羊医師 藤井聡之住職 平岡 晃 医師

「自然死という大催生 「思い通りの死に透過 「生死出離」

・公民館等での市民向け講座などへ 講師、シンポジスト等として参加、 啓発活動を実施



タスク6:関係機関、メディアへの事業広報のアプロ

効果的な在宅医療推進の啓発、広報

- |地元新聞社、テレビ局へ 広く情報提供、 在宅医療連携拠点事業の広報を展開
- |資源マップを作成し広島市地域包括支援 センター等に配布 現在ネット公開の準備中
- 調剤薬局との勉強会を開業以来毎週1回 定期で開催、処方の意図の徹底、疑問点 解決などを行なっている

●鳥取県

ンター(米子市)、真誠会 (同)

モデル事業は201

広島県内で選ばれた4団

いった意見が出ていた。発が絶対的に足りない」教育も大事」「市民への

折口内科医院の高橋浩

医療の推進には

「医学生の

の啓

他の参加者からは、

いう声がある」

が連携する際

中国5県のモデル

事業の拠点

●岡山県

馬場病院(竹原市) □内科医院(広島市)、東 広島地区医師会(東広島 市)、因島医師会病院(尾

●山口県

る」と話した。 (南宏美) という目に見える効果が出るまでにはまだ時間がかかるまでにはまだ時間がかかけ にんしい しょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう (本名) しょうしょう しょうしょう (本名) しょうしょうしょう (本名) しょうしょう (本名) しょうしょうしょう (本名) しょうしょう (本名) しょうしょう (本名) しょうしょう (本名) しょうしょう (本名) しょうしょう (本名) しょうしょく (本名) しょうしょう (本名) しょうしょう (本名) しょんしょく (本名) しょうしょう (本名) しょくしょう (本名) しょくしょう (本名) しょんしょく

用事例などを話し合った。 表=が広島市内で報告会をる中国地方5県の9団体=開している。 事業に参加す め、全国でモデル事業を展する仕組みを確立するた 万円を支給する。 年間約370万 や看護師、 取り組みに対し

療や介護に関わる専門家が者、ケアマネジャーなど医 ビリ担当

らいは

要との意見が 情報をどう共有するかにつ 民生委員との連携が必 、暮らしの高齢者の 出たという。

団体が報告会 両立探る

在宅医療・

介護

中国9

●島根県

加藤病院(川本町)

新見医師会在宅医療連携 拠点まんさく(新見市)

●広島県

宇部協立病院(宇部市)

らうことが大切」 択肢を一般の人に知っても 院長は「在宅医療という選

とし

まとめ

- 1. うまくいった点、特徴的な取組み
 - 1)施設の医師間での不在時の看取り代理ネットワークを構築し実際に連携を開始、運用している。
 - 2)ICTの導入活用は在宅現場、特に医師、ケアマネ、 訪問看護師、訪問調剤薬局の間では有用だと受け入れられ 実際に当チームで運用し在宅看取りに効果をあげている。
 - 3)施設職員の「看取り研修」は喫緊の課題で受講希望施設は多い。 今後も研修活動は継続実施予定。 施設での看取り件数は増え、厚生労働省の施策の中においても 特に重要なポイントになるものと考える。
 - 4) 新聞、テレビメディア活用は特に地元新聞においては在宅医療連載企画開始の(現在も連載中)の導火線ともなり周知活動は医療機関に先行して市民への理解と浸透への大きな力となった。(アンケート集計4月以降WEB公開、動員数による。)

『在宅・施設医療ネットワーク広島』から 高齢者施設における看取り研修・ ュアル作成支援のお知らせ 国もなく完成して各施設に年内の予定で配布される見込みです。 MOGA、70Mのションののないです。 その後は各施設におきましては以下の取り組みが必要と考えられます。 リルーパ、しロサポニ レー取っ 超ル へんご、 ー・ハナルデッル Empails、 町本ドーの。 った担当者が当テームの医療・介護分野 スタップでもあり名 施設での 勉強会・ 研修会に課師あるいは助言者として深温することが可能です。 TRACTION TO THE ACTION TO TH マガル、 <u>ボエルル・タカン(地)</u>、 フル・ファッカスの ロック の の の の でなった マッカー かるい は着数りマニュアル作成・改定への 助言などの ご希望などがありました らどうぞ連連なくご連絡ください各施設にお伺いします。 フェノンルル・トン (原本の) (原本分析的) (原 先望家で日極、双交替表帯で指摘のうえ調整させていただきます) お申し込みは下部ご配入の上 FAX送着でどうぞ 担当者二氏名 時から 第二希望日時 mail マニュアル作成又は改定アドバイス ご希望日時 雅基、FAX 希望项目 730-0822 広島市中医吉島東1-4-16

2.うまくいかなかった点、今後に継続する課題

- 1) 行政、医師会との連携が不足した。行政がようやく動き出し4月からはスムーズな動きが出来るものと推測している。
- 2)特養系施設は"護送船団的"で理解はしてもらえるが組織団体として実施したいとの考えもあり個別での実施は難しかった。行政のいい意味での指導と支援が必要と感じた。今後も県、市との連携を図り在宅診療所として事業趣旨を普及、実践していく。
- 3)ICT普及を大規模事業所複数で説明会を行なったが現場への導入は 検討課題となった。(特養施設、民間介護事業者)
- 4)地域住民へのアプローチを強化する。市民公開講演会だけでなく勉強会などをとおして医師やスタッフを派遣、理解促進を図り普及に努める。 町内会、老人会などの小人数グループへも身近な「出前セナミー」などで「双方向のアプローチ」を試みる。

※過去の住民向けセミナー実績

2012年9月22日(日)がん教室 2012年9月29日(日)在宅緩和ケアについて

会場:吉島福祉センター

会場:己斐公民館